〈校訓〉自律・積極・究理

波高通信

Team HASAMI HIGH SCHOOL

〈スローガン〉人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第８号　平成２６年１１月２８日発行

校長室より

「グローバル人材」

「松井はピカソを目指したらいけない。マツイを目指しなさい」

これは、ピカソが**松井守男先生**に言った言葉です。**「光の画家」**といわれる松井先生は、フランスのコルシカ島と五島列島の久賀島を拠点に活動されている、現代フランスを代表する画家です。フランスの芸術文化勲章やレジオンドヌール勲章を受章され、**「フランスの至宝」**と称されています。巨匠パブロ・ピカソと出会い、冒頭の言葉をかけてもらったのは、先生が27歳のときだったそうです。

11月16日(日)に本校が主催した**美術・工芸科新設記念講演**の**講師**として波佐見を訪れた松井先生は、様々な形で生徒の皆さんと触れ合ってくださいました。「ピカソの名言は？」という生徒の質問に答えて紹介された冒頭の言葉は、とても深い意味を持っているように思えます。また、**記念講演**や**デッサン教室**では、**「若いときの苦労は買ってでもせよ」「こつこつとがんばれば道は開ける」「基礎基本をしっかりと身に付けることが大切」**など、参加した生徒の皆さんにエールを送っていただきました。美術・工芸科の皆さんには、自分を信じ自分の力を伸ばし、ぜひ世界を舞台に活躍するオンリーワンになってくれることを期待します。

ところで、私は11月14日から17日まで4日間に渡って松井先生に毎日お会いし、楽しいお話を伺うことができました。先生の、誰とでもすぐに打ち解け、そのつながりを大切にされるお姿や、すでに世界で高い評価を得ながらも、まだまだ勉強しなければならないとおっしゃるお言葉には、私自身が深く学ばせていただきました。先生のお話の内容は、日本の高校生の電車内でのマナーから世界の富豪やピカソのアトリエでのエピソードまで多岐に渡りました。世界には、日本人とは全く違う物の見方や考え方をする人々がいるということを常に意識しながら、自分の考えを持ってこつこつとあきらめずに努力することが世界で活躍する上で極めて重要であるということを教えていただきました。松井先生との出会いは、私にとってもいつまでも心の中に生き続ける素晴らしいものとなりました。

先生は東日本大震災後に日本復興への祈りを込めた「HOPE JAPAN」という作品を、また、世界に誇るべき日本のエスプリを伝えようと「大和魂！」のシリーズを制作されています。47年間フランスで暮らしながらも、日本のことをとても愛していらっしゃるように思いました。

最近、**「グローバル人材育成」**が声高に叫ばれています。「グローバル」というと語学力が先行しがちですが、**松井先生のような人物と出会い、そこからたくさんのことを学ぶことが、若い人たちにとってグローバル人材となるための確かな一歩**のように私は思います。（野田　定延）

1年陶芸教育

「匠の技に感動」

１１月７日（金）、**第１学年陶芸教育**を実施しました。波佐見町内の陶磁器に関する史跡や工場見学を行いました。

午前中は、**波佐見町陶芸の館、世界の窯公園、中善（陶磁器会社）、西の原工房**をグループに分かれて見学しました。午前中は波佐見町観光ボランティアガイドの方々に引率していただき、詳しく説明をしていただきました。

陶芸の館では、波佐見焼に関する説明を受け、陶磁器工場の見学では、大量生産されている波佐見焼を見学する事が出来ました。

生徒たちは、初めて見聞きする波佐見焼の歴史に時折メモをしながら話を聞いていました。波佐見町出身の生徒たちは自分たちの生まれた地域で、江戸時代に全国へ名を馳せる焼き物が生産されていたことを知り、地元を見つめなおす良いきっかけとなりました。

午後からは、波佐見町村木郷にある、**国指定史跡「畑ノ原登り窯」**を見学しました。

波佐見焼が始まったとされる当時の古窯跡を見学することができ、とても貴重な見学会となりました。

（美術科 陶芸担当　立井 匡樹）

崇城大学見学

「大学（芸術学部）を体験」

１１月２１日（金）に美術・工芸科および希望者（計２１名）が、熊本県にある**崇城大学**の**芸術学部**の見学に行ってきました。崇城大学の芸術学部は油絵、日本画、彫刻、デザインなど、美術に関する様々な分野を学ぶことができる学部です。今回は施設見学と、体験授業をさせていただきました。

施設見学では、彫刻専攻の院生が実物大の馬の作品に取り組む様子や、学部生が大きな油絵を描いている様子、長い廊下にずらりと展示してあるデザインの作品などを見学しました。生徒たちはレベルの高い作品を目の当たりにして、皆興奮している様子でした。

体験授業はマーカーレンダリング（マーカーペンでスケッチに質感や立体感を出す作業）を体験しました。始めは慣れない作業に戸惑う場面もみられましたが、大学の先生方の的確な指導を受け、みんな熱心に作業に取り組んでいました。

参加した生徒達が今回受けた刺激を大事にし、作品制作がさらに充実することを期待します。

（美術科 油絵担当　石田　綾）

「美術・工芸科」新設記念式典

１１月１３日（木）から１６日（日）まで、波佐見町の西の原地区を会場に、**「美術・工芸科」新設関連行事**が行われました。

１３日から始まった**モンネポルト**での**生徒の作品展示**を皮切りに、**８３３スタヂオ**での**美術・工芸科の学科説明会**と**デッサン教室**、１６日の**新設記念式典**と**記念講演**の開催と、あっという間の４日間でした。

吹奏楽部の華やかな演奏のなか、厳粛でありながら心温まる**記念式典**が１６日に行われ、美術・工芸科の新たな一歩を踏み出すことができました。記念式典の後、フランスの至宝と称される**「光の画家」**、**松井守男先生**が**記念講演**を行いました。ピカソとの出会いや作品制作における考えを、ユーモアを交えて話され、美術関係以外の生徒たちにも心に残る内容でした。また、午後から行われた**デッサン教室**でも松井先生にデッサン指導をしていただきました。中学生と美術・工芸科の生徒たちが楽しみながら作品を描いている姿が印象に残りました。

会場を提供していただいた地域の方々、ご観覧、ご出席していただいた多くの方々、いろいろな面でサポートしていただいた本校の先生方や生徒の皆さんに深く感謝申し上げます。ありがとうございました！

（美術科主任　岩永 聡志）

「新たな一歩」

スクールコンサート

音楽の輪が広がりました

11月11日（火）、本校体育館で**「ＯＭＵＲＡ室内合奏団」**の**スクールコンサート**が開催されました。**「ＯＭＵＲＡ室内合奏団」**は長崎県内初のプロのオーケストラとして2004年に結成されました。

当日は、モーツァルトの歌劇**「フィガロの結婚」**やヴィヴァルディの**四季**から**「秋」**、東日本大震災復興支援ソング**「花は咲く」**などの演奏に全校生徒が集中して聴き入っていました。また、**「楽器体験」**など、楽しい時間を過ごすことができました。

直に聴く弦楽器の美しい響きに感動した生徒も多く、新鮮で楽しい音楽の輪が波高全体に大きく広がりました。（生徒会指導部主任　田原 孝一）

「みんなで歌おう」の**コーナー**では、**「翼をください」「校歌」**の２曲を３年４組大木勇太朗君の指揮の下、室内合奏団の伴奏に合わせて歌いました。ピアノの響きとは違う弦楽器の滑らかな響きとブレンドし、生き生きとした歌声が体育館中に響き渡りました。一人ひとりがしっかりと声を出し、一生懸命歌っている姿は心に響き、音楽の輪が広がっていくのを感じました。みんなと声を合わせて歌う楽しさと、弦楽器の伴奏に合わせて歌う素晴らしさを体感できたことと思います。（音楽科　大小瀬 泉子）

商業高校合同販売実習

波高と波佐見町をＰＲ

１１月２４日（月）、**ＪＲ長崎駅前かもめ広場**において、商業科目を学習する県内７つの学校が集い、開発した商品や、地域の特産物を販売しました。本校からは、３年前に商品開発した**「一球茶ん」（すり鉢茶碗）**、**サッカー部**と**野球部**が育てた**お米、美術・工芸科**の生徒が描いた**ポストカード、川内地区**の**味噌・塩麹・梅干、野々川地区**の**お茶・紅茶**の８品目を持って参加をしました。商業科１年４組の男子４名は、野球のユニホームを着て、元気に売り込み、女子は波佐見町の法被を着て会計・包装に大忙しでした。いろいろと大変でしたが、他の学校の生徒と一緒に販売することでよい刺激を受け、有意義な１日を過ごすことができました。天候にも恵まれて盛況の裡に終了しました。この生徒６名が販売実習の楽しさや大変さを周りの生徒に語って刺激してくれることを期待しています。

販売実習にあたり、各方面から協力をしていただきました。心より感謝いたします。本当にありがとうございました。（商業科主任　丸屋　陽子）

「図書館PR大賞コンクール」において優秀賞輝きました

11月９日に諫早市立たらみ図書館で開催された**「第11回ライブラリーフェスティバルＰＲ大賞コンクール」**において、本校の図書文芸同好会が出品した作品が、**優秀賞**を獲得しました。**ＰＲ大賞コンクール**とは、図書館の利用を活性化するため、いかにして魅力的なディスプレイを作成するかを競うコンクールです。本校の作品テーマは**「ようこそBOOKLAND」**。日常とは違う、楽しい本の世界に人を案内するようなメルヘン的な作品になるように心がけました。最も難しかったのは、作品全体をどのように立体化するかという点でした。作品の手前右側には屋台が、背景には城が描かれています。本校の図書文芸部員は、現在、２年生９人だけですが、９月頃から作品制作に着手。時には意見が対立して、作業がストップしてしまうこともありましたが、なんとか本番までに完成させることができました。部員たちは「私たちの努力が報われてとても嬉しい。これを契機に、図書館に来てくれる人が少しでも増えて欲しい」と話していました。

（図書文芸同好会顧問　蕨迫　明）

長崎大学出張講義

大学の講義は、やっぱりおもしろい！

１１月１４日（金）、**第２回長崎大学出張講義**を、**長崎大学産学官連携戦略本部副本部長**の**嶋野武志教授（人材育成部門）**を今回もお招きして、究理倶楽部と２年Ｂコースを対象に実施しました。

今回は**「自らをいかに『価値ある人材』に育てるか？」**というテーマで、「グローバル化」の中で人間の真価が問われる時代に生きる皆さんへのメッセージ、という形で講義をしていただきました。

導入は我が国と世界の歴史を江戸幕府の成立から現代への流れの中で、中心となって国を動かしてきた人物達の特徴を踏まえて、大変親しみやすい口調でお話していただきました。前回同様生徒の興味をぐっと引きつけた上で、価値ある人材となるキーワードを示していただきました。（進路指導主事　宮﨑　恵）

新旧生徒会役員交代式

１１月１９日（水）に**新生徒会役員の任命式**と**新旧役員の交代式**が行われました。旧生徒会を代表して会長の浦瑛樹さんが、「皆さんのご協力のおかげで生徒会の任務を無事に果たすことができました」とお礼の言葉を述べました。新会長を代表して２年２組の本山翔也君は、「私も、浦先輩に負けないように、全校生徒で協力して、楽しく思い出に残るよう生徒会行事を成功させたいと思います」と決意を語りました。

やる気に満ちた新役員で明るく楽しい波高を創り上げていって欲しいと思います。（生徒会指導部主任　田原 孝一）

第１学年大学探求

大学を肌で感じてきました

１１月６日（木）好奇心旺盛な１年生徒２４名が平日の**長崎大学のキャンパス**に乗り込み、長崎大学名誉教授を先頭に構内を見学して回りました。目的は「大学を肌で感じる」です。

教授の講話は、「大学とは迷うところだ」「大学は優れた人が集まってくる」「人に優しくなるために勉強する」といった内容でした。生徒は、「教授の話は難しかったが、おもしろくて、とてもためになった」「勉強する目標ができた」と感想を語りました。大学構内は、広い敷地の中に大きな建物が並び、その間を大勢の学生が歩いています。数億円の電子顕微鏡に触れ、エレベーターで教室を移動する圧倒的な迫力。生徒は「迷子になりそうだ」「学生がみんな活き活きと楽しそうだ」「外国人もたくさんいる」と話していました。**波佐見高校卒業の先輩との座談会**では、自分で作った時間割で自分が受けたい授業を受けるという説明や、大学生の１日の様子、大学で得たこと（様々な価値観の人と友達になれる、やりたいことが自分の意志でできる）や、入試の方法やそのためにやるべき事（部活動やボランティア活動、生徒会活動を一生懸命にがんばれ）など、分かり易く丁寧に話してくれました。生徒は、「本当に充実していて楽しそうだ」「あこがれます」などと話していました。**学食**では、広い食堂に大勢の学生がひしめく中、きょろきょろ辺りを見渡しながら恐る恐る注文していました。生徒は「メニューも豊富」「とにかく安い」「うまい」と話していました。今回を機に、進路を大学進学に変えた生徒もいます。

みなさんも、**自分の進路を決めるために具体的に行動を起こしましょう。**（１学年主任　川瀬 啓典）

薬物乱用防止講話

11月19日（水）に佐賀女子高等学校衛生看護専攻科の中村聡子先生をお招きして、**「喫煙と薬物乱用」**の演題で講話をしていただきました。中学校・高校と保健の授業などで禁煙教育を行っていますが、全国的に見ると成人の喫煙率は下がっているものの、未成年や女性の喫煙は減っていない状況です。今回は特に、**煙草の“人体に与える害”“常習性の高さ”“薬物乱用への入り口”**という観点から講話をしていただきました。生徒の感想文を見ると、「授業と違い画像や映像で煙草の怖さが良く伝わってきた」「周囲の人が吸っていたら吸わないように注意したい」等、煙草の怖さを再認識したようです。**“煙草も危険な薬物である”**ことを理解し、“薬物”“煙草”に関わらない人生を歩んでくれることを願います。（生徒指導主事　黒江 英樹）